



『建築家としての片岡 安氏を知る②』

前号に引き続き、今回も「関西工学専修学校」の初代校長を務めた片岡 安氏が建築家として携わった建築物を紹介します。

1. 奈良ホテル（奈良市）



【写真上】奈良ホテル外観（現在）
【写真下】奈良ホテル内装（現在）

奈良公園内にあり、日本の名門ホテルの一つとして名高い奈良ホテルは「関西の迎賓館」として、1909（明治42）年に辰野金吾と片岡 安の設計、河合浩蔵（1856-1934）の工事監理で建てられました。

日露戦争後、日本を訪れる外国人観光客の急増にともない、鉄道院や奈良県、都ホテル創始者の西村仁兵衛が主となり開業。1913（大正2）年から終戦までは国の直営となり、国賓や皇族などが宿泊する迎賓館に準じた施設として扱われ、エドワード8世、ヘレン・ケラーなど数多くの著名人も宿泊しました。

総檜造り2階建てのこのホテルは、古都・奈良の歴史的景観との調和を考えた和の建築になっており、瓦葺きの屋根の両端には古代の寺院建築に見られる鴟尾が施され、2階まで吹き抜けの玄関ホールの階段には寺社建築風の高欄が設けられています。その

他にも、朱塗りの鳥居に囲まれた暖炉、オードリー・ヘプバーンが絶賛したと言われる和風シャンデリアがあり、見事な和洋折衷の建築物となっています。また、アインシュタインが宿泊した折に弾いたピアノが現在も展示されています。

2. 日本生命京都三条ビル旧棟（京都市中京区）

旧日本生命京都支店の社屋として、1914（大正3）年に建設されたレンガ造2階建ての建築物。辰野金吾と片岡 安という2人の建築家の才能が見事に融合したこのビルには、外壁の石張り（片岡）、複雑な屋根の構成（辰野）という両者の特色が表れています。耐震性への配慮から、鉄骨を入れたレンガの上に外壁として石張りをしているのもこのビルの大きな特徴ですが、外からはレンガが見えない構造になっています。

1983（昭和58）年の改築により、残念ながら、当時のまま残っている構造物は塔屋を含む通りに面した東側の一部分だけになりました。



ビルそばのプレートに、片岡 安の功績も紹介されています。

3. 北國銀行旧京都支店（京都市中京区）



現在は改装され、カフェになっています。

烏丸通に面して建っている「北國銀行旧京都支店」は、**辰野片岡建築事務所**の設計により1916（大正5）年に建てられました。完成当初は「山口銀行京都支店」として、その後は「北國銀行旧京都支店」として使用されました。この建物の建設当時、日本の建築工法がレンガ造から鉄筋コンクリート造への移行時期だったため、この建物も鉄筋コンクリート2階建てです。また、幾何学模様が多く用いられた外壁、

内部の大きな丸柱や古い金庫の扉、床のタイルなどは当時の趣を今日に伝えています。

なお、この界隈には京都文化博物館別館（日本銀行旧京都支店、注1）やみずほ銀行京都中央支店（旧第一勧業銀行京都支店、注2）など、明治以降のレトロ建築も数多く残っています。

4. 鹿児島市中央公民館（鹿児島市）

鹿児島市城山麓の鶴丸城近くの交差点に建つ「鹿児島市中央公民館（旧鹿児島市公会堂）」は、**片岡 安**の設計により昭和2（1927）年に建てられました。1924（大正13）年に行われた摂政宮（のちの昭和天皇）のご成婚記念事業として起工された鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階の建物です。昭和20（1945）年の鹿児島大空襲で外壁を残して消失しましたが、その後、修復工事が行われ、2005（平成17）年には国登録有形文化財に指定されました。



現在も鹿児島市の社会教育施設として、市民に利用されています。

（注1）明治期を通じて、日本銀行の本・支店の建築に携わった辰野金吾が設計した建物です。

（注2）外観部を保存して内部を改築する「ファザード保存」が、日本で初めて行われた建物です。



常翔歴史館では、学園創設期から今日にいたるまでの「学園のあゆみ」を、写真や展示物などを通して紹介しています。自校史学習の一環として、ぜひ生徒・学生のみなさんもお来館ください。

① 開館時間：月曜日～金曜日の11:00～17:00

【学園が定める休業日は除く】

② 問い合わせ先：常翔歴史館事務局

（外線／06-6955-7762、内線／大宮 801-7762）

※8月1日（月）～9月13日（火）までは、夏期休館いたします。

【参考文献】①日本近代建築大全【西日本編】（監修 米山 勇、撮影 伊藤隆之、講談社）、

②京都洋館ウォッチング（著者 井上章一、株式会社新潮社）

③西洋館 明治・大正の建築散歩（中村哲夫 写真・文、淡交社）